



Hi-Ho-News にゅーす



公益財団法人
環境科学技術研究所
(環境研)

2024年 冬号

排出放射性物質影響調査に関する情報を紹介いたします。

ご来場ありがとうございました!! ～ ろっかしよ産業まつり ～

11月4・5日、尾駈漁港で行われた「ろっかしよ産業まつり」に出展しました。環境研では毎年、科学体験イベントを実施しています。

今年は「スーパーボールロケット」を企画し、ストローで作ったロケットをスーパーボールの弾む力で飛ばす工作を行いました。また環境研の活動について紹介するコーナーを設け、放射線を観測できる装置「スパークチャンバー」や「霧箱」も展示しました。

会場では環境研のほか、量子科学技術研究開発機構、青森県量子科学センター、東北大学も科学体験コーナーを開設しており、子供連れの家族を中心に、大変盛況なイベントとなりました。



マスコットすくい:いくつすくえた?



一生懸命作ってます!



完成!



ちゃんと飛ぶかな??



飛距離アップ?



環境研のPRも忘れません

弘前大学の学生さんが実習に来てくれました ～ 弘前大学副専攻 ～

10月19・20日、「原子力人材育成等推進事業費補助金」の一環として、弘前大学の保健学研究所大学院生、理工学部3年生が研修(インターンシップ)に訪れました。研修では、研究施設の見学と研究紹介のほか、環境試料中の放射性物質の測定実習や、放射線照射によるDNA傷害の可視化実習などが行われ、参加した学生からは「現場で働いている方の話が聞け、授業で得られない貴重な体験ができた」との声がありました。



Ge半導体検出器実習の様子

泊小学校の子供たちと海や海の生物について学びました。

10月26日、泊地区ふれあいセンターにて、ワークショップ「太平洋の貝の貝殻・海藻・海草で遊ぼう」(主催:六ヶ所村文化協会読書愛好会)が開催され、お手伝いとして参加しました。

当日は泊小学校の6年生14名が参加、前半は当研究所の石川研究員から海草と海藻の違いや海草のアマモについて学びました。北半球に生息しているアマモは青森県沿岸やむつ湾にも多く生息しており、アマモの仲間のウミヒルモは青森県が北限であることが最近分かったこと、海草や海藻は光合成により大気中の二酸化炭素を取り込んで地球温暖化の防止にも役立っていること等が紹介されました。

後半は、泊の海岸で採取された貝殻などの顕微鏡観察や放射線の測定を行いました。東京から来た2名の女性研究者も加わり、児童たちからの質問に答えアドバイスするなど交流を図りました。講演や実習に興味を持って元気に取り組んでいる子供たちの様子が、印象的でした。



講義を真剣に聞く泊小学生たち



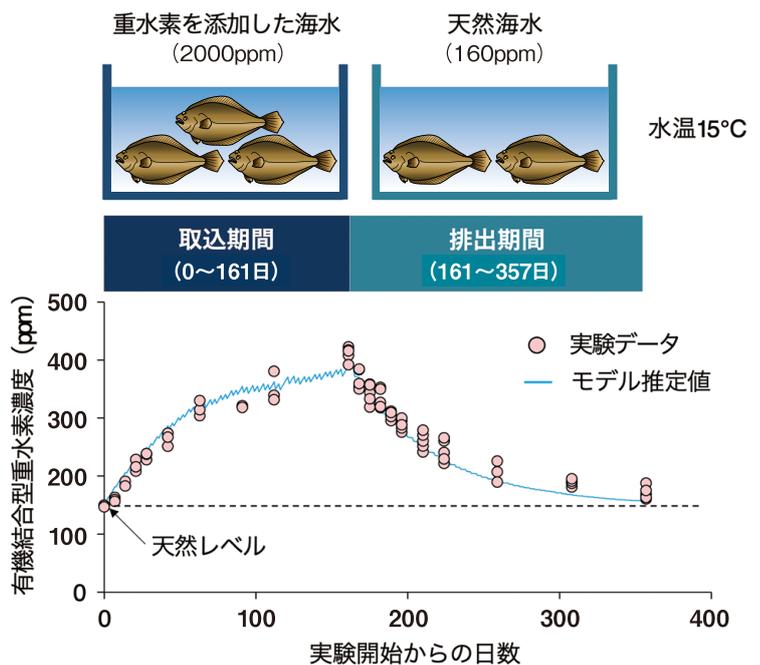
何が見えた?

プレス発表:トリチウムに関する研究成果が多くの新聞で報道されました。

海水中のトリチウムに関する研究成果が、読売新聞、毎日新聞、東奥日報、デーリー東北に掲載されました。

環境影響研究部の谷副主任研究員と石川研究員は、重水素(トリチウムと同じ性質をもちながら放射線は出さない)を加えた海水でヒラメを飼育し、海水中のトリチウムが体内で有機物となっても周囲の濃度を超えて蓄積することはないこと、海水中のトリチウムの濃度が下がれば排出されることを実証しました。また、それらは計算式で推定した結果(モデル)とも一致することを確認しました。

今回の結果は、ヒラメの可食部である筋肉において、トリチウム水だけでなく有機物となったトリチウムも蓄積し続けず代謝によって排泄され、その濃度もヒラメが生息している海水中濃度を超えないことを示しています。



ヒラメ筋肉中の有機結合型→重水素濃度の推移



お問い合わせ先(放射線に関するご質問も受け付けております)



公益財団法人
環境科学技術研究所 共創センター

ホームページ <https://www.ies.or.jp/>
メールアドレス kanken@ies.or.jp
電話(FAX) 0175-71-1240(71-1270)

本誌は青森県からの委託により制作しています。